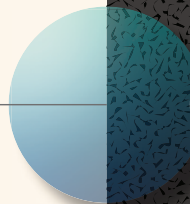
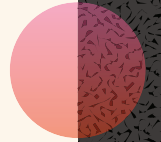


# 「鳥取県西部地震」 巡回パネル展



## 【パネル展示 実施案内文】

～鳥取県西部地震から10年目事業～

# 鳥取県西部地震巡回パネル展示

本年10月6日が鳥取県西部地震から10年目に当たることから、鳥取県では9月及び10月を「地震防災力強化期間」と位置づけ、地震防災に関する意識啓発事業を実施します。

その中の1つとして、鳥取県西部地震がどのような地震だったのか、復興に向けてどのような取り組みを行っていたかなど、昭和18年9月10日に鳥取県東部を震源に発生した鳥取地震の状況とあわせ、写真パネルで紹介します。

また、鳥取県内で予想される大地震の震度、地震に対する事前の備えについても紹介しています。

鳥取県西部地震の経験・教訓が風化することのないよう、10年目の節目に合わせ県内各所でパネル展示を行い、広く皆様に普及啓発させていただくものです。

鳥取県防災局

西暦2000年10月 6日午後1時30分

鳥取で震度6強  
M7.1 大阪も震度4

## 【会場での展示風景】



展 示 期 間	展 示 場 所	
平成22年 9月 1日～ 9月 5日	ジャスコ鳥取北店	(鳥取市)
平成22年 9月 6日～ 9月 20日	鳥取空港国際会館 (1階センタープラザ)	(鳥取市)
平成22年 9月 21日～ 9月 30日	倉吉交流プラザ	(倉吉市)
平成22年 10月 1日～ 10月 5日	米子市役所	(米子市)
平成22年 10月 6日	フォーラム会場：米子市文化ホール	(米子市)
平成22年 10月 7日～ 10月 15日	米子市役所	(米子市)
平成22年 10月 17日	防災フェスタ会場：米子港周辺	(米子市)
平成22年 10月 18日～ 10月 29日	夢みなとタワー (1階ロビー)	(境港市)

## 鳥取県西部地震の震度等について

鳥取県西部地震は、震央に近い日野町、境港市で震度6強を観測したのをはじめ、中国・四国・近畿地方の広い範囲でも揺れが感じられました。

鳥取県内でのマグニチュード7以上の地震は、昭和18年以来であり、鳥取県西部を震源とする地震は、平成9年のマグニチュード5.1の地震以来のことでした。

### 1 鳥取県内の震度分布



### 2 余震回数

地震発生から1月11日までの間に、余震は無感のものも含め5,433回以上を数えました。

(単位：回数)

区分	最大震度別回数 (有感)								合計
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	
回数	658	293	105	12	2			1	1,071

# 鳥取県西部地震とその被害の概要

## 1 発生時刻及び震源地

平成12年10月6日 午後1時30分  
鳥取県西伯郡西伯町～日野郡溝口町付近  
(北緯 35.3° 東経 133.4°)

## 2 規模

マグニチュード 7.3  
最大震度6強(境港市・日野郡日野町)

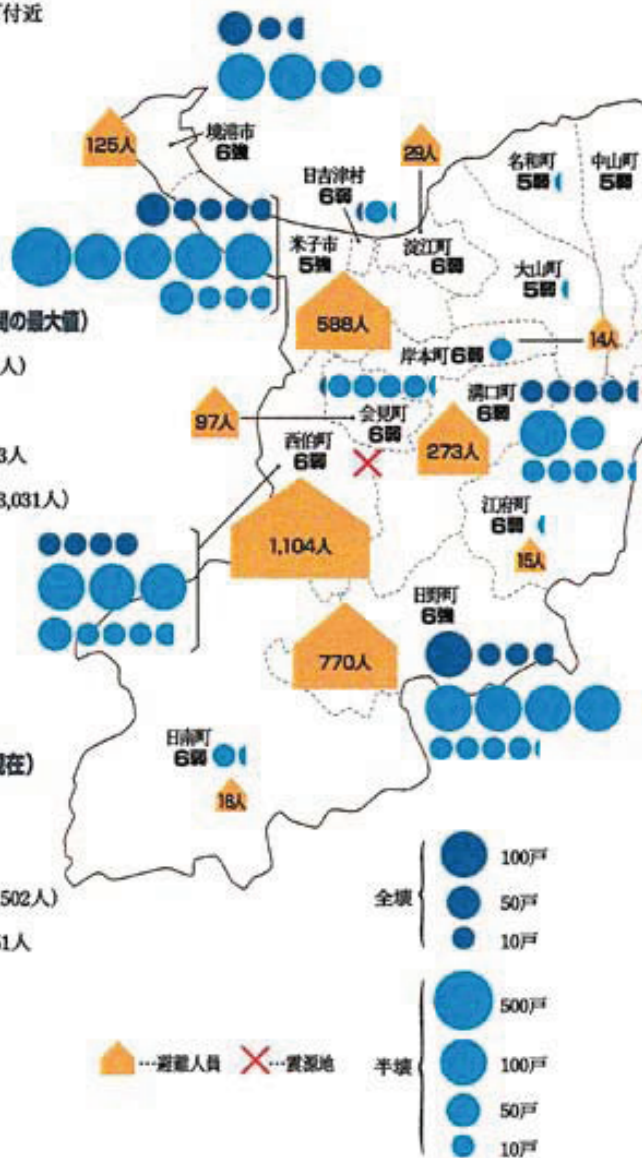
## 3 被害の状況(1月12日までの間の最大値)

- 負傷者 106人(重傷30人、軽傷76人)
- 住民の避難
  - 1日当たりの避難人員最大値 2,703人
  - (各市町村の避難人員最大値計 3,031人)
- 住家の損壊(1月12日現在)
 

全壊	373戸
半壊	2,341戸
一部破損	12,107戸

## 4 救援活動(のべ人員:1月5日現在)

- 自衛隊 1,546人
- 消防署員・消防団員 3,908人  
(消防署員 1,406人、消防団員 2,502人)
- ボランティア(1月7日現在) 5,351人  
(うち県外者 1,900人)



## 平成12年鳥取県西部地震の特徴について

### 震度分布

震度6強	日野、境港
6弱	西伯、溝口
5強	米子、新見、岡山哲多、落合、美甘、香川土庄
5弱	松江、東郷、岡山、玉野、福山、徳島、観音寺、兵庫津名
4	鳥取、出雲、倉敷、広島、高松、松山、高知、大阪、神戸

### 震度の特徴

- ①山間部の日野町と沿岸部の境港で「震度6強」が記録されている。
- ②震度の大きな地域が震源の南側（岡山県から四国まで）に広がっている。
- ③松江、鳥取、出雲などは、震源までの距離が近いが、比較的震度が小さい。

### 被害の特徴

被害は震度6の地域に集中しています。マグニチュード7.3の地震にしては、死者もなく、火災も発生しなかったなど被害が少なくなっています。これは、発生時刻が午後1時30分とおおむね昼食後であったことや、震源及び激震域が山間部で住宅が密集していなかったこと、地盤が比較的良かったためと考えられます。

### 被害の種類

- ①家屋の倒壊、山間部での斜面崩壊、落石などの地盤動による被害
- ②沿岸部での液状化現象による地盤被害
- ③都市型の被害

境港市、米子市など都市部では、港湾岸壁の崩壊、マンホールの抜き上がり、電信柱の沈下など、ライフラインの被害が随所に見られました。

### 本震と余震分布

本震は、西伯町の地下10キロメートルのところを震源として、震源断層が北北西-南南東の走行で、20キロメートルの長さの左横ずれ断層を示しています。

余震活動は、震源断層に沿った細長い帯状の地域に集中しています。この中で、最大余震マグニチュード5.0が北の端近くに発生しています。そして、誘発地震群が二カ所あり、割算型の分布をしています。南西の日南町-横田町ではマグニチュード5.5の地震が発生しています。

### これまでの地震活動

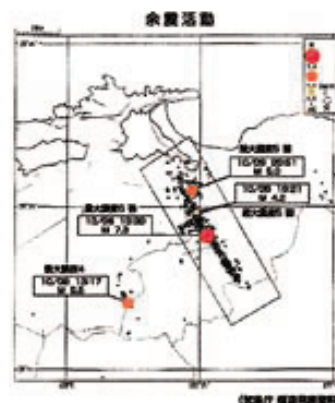
#### ①山陰地方の歴史地震

明治以来、日本海沿岸に沿った大地震は浜田地震、北丹後地震、鳥取地震と発生して、鳥取県西部では起きていません。

#### ②最近20年間の中地震

1983年鳥取県中部の地震(M6.2)、1985年大山付近の地震(M4.9)が大山山頂から数キロメートル東に発生。1991年には鳥取県東部の地震(M5.9)が発生。1983年からの地震活動は、東から西へと移動しています。

資料 鳥取大学工学部 西田良平教授



(国研院 気象庁提供)

鳥取県西部地震